

平成 26 年 7 月実施 生徒による授業評価 まとめ

木曾青峰高等学校

本校では、7月に全生徒に対し、全職員・全講座に関する「授業評価アンケート」を無記名で行いました。座学用・実習を伴う科目用などの4種類のアンケート用紙を作成、それぞれのアンケート用紙に6項目の調査項目と記述部分を設け、実施しました。

座学用アンケート項目6項目・実習を伴う科目用アンケート共通の3項目の全日制・定時制を合わせた結果は次のとおりです。

【座学中心の科目用授業アンケート結果】・・・4181 件				
Q 1. 授業に意欲的に取り組んでいますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
29%	32%	36%	3%	0%
Q 2. 授業は興味関心や学習意欲を高め、わかりやすく充実したものになっていますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
30%	32%	31%	5%	1%
Q 3. 問いかけや小テストなど理解を確かめながら授業が進められていますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
28%	26%	39%	5%	1%
Q 4. 授業の難易度は適切ですか。				
①難しい	②やや難しい	③ちょうどよい	④やや易しい	⑤易しい
5%	22%	71%	1%	0%
Q 5. 授業の進む速さは適切ですか。				
①速い	②やや速い	③ちょうどよい	④やや遅い	⑤遅い
2%	14%	79%	4%	1%
Q 6. 課題の量は適切ですか。				
①多い	②やや多い	③適切である	④やや少ない	⑤ない
2%	8%	73%	1%	16%

【実習中の科目用授業アンケート結果】・・・1570 件				
Q 1. 授業に意欲的に取り組んでいますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
38%	28%	33%	1%	0%
Q 2. 授業は興味関心や学習意欲を高め、わかりやすく充実したものになっていますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
36%	26%	35%	2%	0%
Q 3. 技術の習得など理解を確かめながら授業が進められていますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
33%	29%	36%	2%	0%

なお、以下に各教科の分析内容と授業改善の方向性についてまとめました。

【全日制】

1 分析した内容（教科毎の集計と個人の集計の比較、自由記述から等）

教科	ま と め
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意欲（自己評価）については、やや甘い感は否めないが、全学科とおしてかなり高い意識をもって授業に臨んでいる生徒も少なくない。 ・授業の難易度および進む速さについては、ほとんどの生徒が「ちょうどよい」と回答しているが、「やや易しい」「やや遅い、遅い」と回答している生徒も少ないながら存在している。本校の特徴のひとつとして、同一学科間における生徒の学力差の大きさ、授業に対するニーズの多様性が挙げられると思うが、どのレベルの生徒に照準を合わせて授業を展開するかは、十分検討すべき問題であると思う。可能な限り、習熟度別、進路希望別の講座編成が望ましいと思う。 ・課題の量に関しては、我々と生徒の間に認識のずれを感じる。「課題がない」と回答している生徒が 19%いる。自学課題（授業の中で、範囲を決めて定期的にテストを実施している）として配付している問題集も多いが、生徒はそれを「宿題」として認識していないようである。提出を求められるものだけが宿題なのではなく、自学課題も意欲的に取り組むべき宿題なのだという自覚を持たせる指導も必要である。
地歴・公民	<ul style="list-style-type: none"> ・教科全体としては意欲的に取り組んでいるかという質問に対し、「あまりそう思わない」「そう思わない」という生徒は 1%のみであった。実際には授業中に集中しきれていない生徒はもっと多く見受けられるので、生徒は自身に対する甘さがあるのではないかと思われる。 ・「授業は興味関心や学習意欲を高め～」という質問に対して否定的な意見が約 1 割ある。成績不振の生徒が否定的にとらえていることも考えられるが、今後も注視していく必要がある。 ・授業の難易度については 3 割の生徒が「難しい」・「やや難しい」と回答している。苦手意識がある生徒がそのなかで全体のどのくらいをしめるのか今回のアンケートではわからないので、質問の内容を練っていく必要があると思われる。 ・授業の速さについては「速い」・「やや速い」と感じている生徒が 2 割いるが、年間を見通したなかで進められているので、このままでよいと思われる。 ・課題の量については「ない」が 3 割を占めている。他教科よりも高い数値となっているが、生徒からの要望として課題を増やしてほしいということがあれば、今後検討していきたい。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度の講座によって違いがあり、各講座の求めるものに合うようにこれからも工夫していく必要がある。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が少ない傾向にある。 ・授業の進度・板書のスピードが速い。 ・プリント学習は効果的だ。穴埋め問題の解答は、口頭ではなく板書して欲しいとの意見あり。

保健体育	<p><体育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいるかという質問に対して、①そう思う②ほぼそう思うという回答が約80%あり、生徒自身が積極的に取り組んでいると考えられる。 ・わかりやすく充実した授業か、理解を確かめながら授業が進められているかという質問に対して、④あまりそう思わない⑤そう思わないと回答した生徒がかなり少ない(Q3④1%)ので、生徒の様子や状態に合わせてながら適切な授業が展開されていると言える。 ・講座ごとの回答に大きなばらつきはみられない。特に同時展開されている講座の担当はほぼ同じになっているため、同質の授業が展開されていると思われる。 <p><保健></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいるかという質問に対して、①そう思う②ほぼそう思うという回答が約70%あった。生徒の期待に応える授業を展開していきたい。
芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に授業に臨んでいるかについて「そう思う」「ほぼそう思う」の割合が7割以上である。 ・授業の充実度について、3割が「普通」と回答。中学までの芸術教科と異なる内容に戸惑う生徒にも対応した導入や指導方法を検討する必要がある。 ・技術の習得については、講座担当者によって単元や内容が異なるため、各個人の結果を見て対応していく必要がある。 ・授業の難易度については、教科の特性上、回答が難しかっようだ。 ・授業の質と量については、9割の「適切である」という回答が得られた。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に向かう姿勢については、前向きな生徒が多くいる。記述欄にも、「板書が見やすい。文法の説明が分かりやすい」などの意見が多くあった。ノートを美しく書くこと、イコール勉強、ではないので学習事項がしっかり定着するよう復習(自宅学習)をさせることが大切である。 ・授業の難易度・進む速さでは、3年生に「やや難しい」「やや速い」という意見があった。進路別の講座編成となっているが、特に近年は能力的な幅も広がり、進路保障を考えると、教材の選定や進め方に難しさを感じる。 ・課題の量を問う項目では、⑤「ない」を選択した生徒が数%いた。予習・復習・小テストのための勉強などは課題とは受け取っていないと思われる。毎日課題があるということのを再認識させたい。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・分布は、教科で大きな差はなかった。 ・自由記述欄の記入量に大幅な差が出た。早い段階でアンケートを実施した科目の方が多く記入があった。同じアンケートを繰り返し行うことに生徒も飽き、実施期間の後半にアンケートを行った科目では自由記述欄の記入も少なかったのではと思う。工夫が必要であると思う。
森林環境	<ul style="list-style-type: none"> ・座学の授業の評価は、おおむね良好であった。課題が「ない」が18%であり家庭学習の教材も必要か検討したい。 ・実習を伴う授業の評価は、質問の各項目ともおおむね良好であったが、安全性については常に点検を怠らないようにしたい。

インテリア	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいるかという質問には、④あまりそう思わない⑤そう思わないが、座学1%、実習2%のみであった。集中力や積極性に欠ける生徒は相当おり、回答に疑問を感じる。 ・「興味関心や学習意欲を高め、わかりやすく充実～」という質問には、④・⑤が、座学7%、実習5%であり、不足感を感じている生徒が少数（5～7名 / インテ生徒数101名）いる。向学心の高い生徒が不足感を感じているものと思われる。 ・問いかげや小テスト・難易度・進む早さという質問には、④・⑤が、座学・実習を通じて2～4%であり、大多数の生徒には適応しているものと思われる。 ・課題の量に対する質問には、「ない」が座学で16%あるが、科目によるものである。 ・授業中の安全確保に対する質問には、否定的な回答はなく、安全教育の徹底がなされていると思われる。事故0を求め続けたい。
-------	--

2 今後の授業で改善したほうがよい点等

教科	ま と め
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が興味を持ち取り組める教材（授業で扱う作品）の選択や、生徒の学習意欲を高める補助教材を工夫したい。 ・テストで点を取らせることを目的とした（知識の詰め込みに特化した）講義形式の授業だけではなく、自分の意見を相手に的確に伝えるために、「話す」「書く」能力をも身につけさせる授業を工夫したい。 ・授業の中で適宜「確認課題」などに取り組ませたり、効果的な発問のしかたを工夫したりすることをおして、常に生徒の「理解度」を把握し、その結果を授業展開に生かすように心がけたい。
地歴・公民	<ul style="list-style-type: none"> ・「問いかげや小テストなど理解を～」という質問に対して否定的な意見が1割ある。授業が一方的にならないように発問の回数なども毎回の授業で意識していく必要がある。 ・公民(政治経済)は授業時間数が少なく、入試に間に合わせるために範囲をこなすことで精一杯となるため、小テストを授業中に実施する余裕がない。復習のための課題を宿題として出すなどの別の工夫も検討したい。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に合わせるのではなく、こちらの求める内容や進度を考えていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が少ないという意見があるので、課題を出す。 ・プリント学習における穴埋めの（ ）は、口頭ではなく板書で解答する。
保健体育	<p><体育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は運動量が適切であるという回答が多かったが、体育科としては、運動量が少ないと感じているので、生徒に負担がかからないように運動量を増やしていきたい。 ・知識を教えて欲しいという要望もあったため、運動することだけでなく「知識としての体育」も展開したい。 <p><保健></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テスト前に学習できるプリントなど用意した方が良い。 ・テストが難しいという指摘があったので、生徒がさらに理解できるように丁寧な授業を心掛けたい。

芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・自由記述に「説明が長い」という意見があったので、講義と実技のバランスを考えていきたい。 ・中学までの学習内容と異なる内容が多いので、題材や導入部の工夫が必要だと感じた。 ・知識・技術の定着を確認する場を設定していきたい。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容については、単調に進めるのではなく、教材から少し離れてみたり、補足プリントなどを作成したり、音読をしたりと 50 分にメリハリをつけたい。 ・進度については、講座・個人によって意見が分かれるので、理解の度合いを確認しながら、授業を進めたい。 ・板書は見やすく書き、はっきりと話すように、いつも心掛けたい。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで行う作業を増やしたり、生徒自身が考え、意見を交換したりする時間を多く設ける。 ・実物教材や VTR など、教科書以外の教材を多く活用する。 ・声の大きさや言葉遣い、授業時の立ち振る舞いなども、生徒が授業内容に集中できるよう配慮する。
森林環境	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習や時間外での発展的な学習（地域や企業での実践や研修）の適切な運用。 ・安全な実習環境を保つための施設・設備。
インテリア	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の量について、適切な量・内容を検討。 ・生徒のやる気をいかに引き出すか、高めるか研究。

【定時制】

1 分析した内容（教科毎の集計と個人の集計の比較、自由記述から等）

教科	ま と め
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・9割以上の生徒が、普通（ちょうどよい、適切である）以上を選んではあるが、1～3名の生徒が余りそう思わない、そう思わないと答えている。1～3名とはいえ、少人数の中では高い割合である。
地歴・公民	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の集計との結果は似ており9割以上の生徒が普通以上を選んでいるが、意欲的に取り組んでいるかという質問に対しては普通以上と答えている生徒が全体の集計に対して少なかった。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的に回答した生徒もいると思われるが、全体の集計と個人の集計の結果は似ている。 ・学年により習熟度別の授業を展開している効果もみられる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・「普通」を選んでいる生徒が圧倒的に多いが、その中に実態は理解の進んでいない生徒もいる。
保健体育	<p><体育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいるかという質問に対して、全員が③普通以上の回答であり、生徒自身が全員積極的とはいえないが、自分のできることに前向きに取り組んでいこうとしている姿勢・態度がみられる。

保健体育	<保健> ・意欲的に取り組んでいるかという質問に対して、全員が③普通以上の回答であり、生徒の期待に応える授業を展開していきたい。
芸術	・9割以上の生徒が普通（ちょうどよい、適切である）以上を選んでいる。
外国語	・生徒の実態とアンケート結果に矛盾があった。 ・生徒自身がどこが分からないかが理解できていない。
情報	・難度の上昇希望者と下降希望者が両方いる。 ・個人の技量格差が大きい。

2 今後の授業で改善したほうがよい点等

教科	ま と め
国語	・興味関心を喚起させるために、問い掛けの言葉のキャッチボールを今まで以上に意識的に心掛ける必要があると考える。
地歴・公民	・用語に対する理解度の格差があるので、それを埋めるような授業展開を心がけていく必要がある。
数学	・さらに興味を引くような教材の研究。
理科	・中学以前の内容をふりかえりながら、自分に不足している内容を自覚させる。
保健体育	<体育> ・生徒は運動量が適切であるという回答が多かったが、体育科としては、運動量が少ないと感じているので、生徒の負担がかからないように運動量を増やしていきたい。 <保健> ・生徒の実態に合わせ、もっと身近なより興味の持てる内容にしていきたい。
芸術	
外国語	・一人ひとりに合った内容をできるだけ丁寧に指導する。
情報	・個人の技量格差を埋めるために、生徒同士で教え合うような雰囲気を更に作っていききたい。

【まとめ】

このアンケートの最大の目的は授業の改善にあります。授業は生徒と教師、一緒に作るものです。このアンケートを通じて、どの学年・どの学科・どのクラス・どの講座でも「授業第一主義」であることを互いに再確認し、家庭学習も含め、より一層の自律的な学びを目指すよう努力しています。